

福島県の自然に触れて

2年 K・B

～興味を持ったきっかけ～

私は一年生の時から裏磐梯へ行って、毒のある植物、人々の役に立つ植物を知りたいと思っていました。興味を持ったきっかけは、一年生の時の最初の授業で水芭蕉には毒があると聞き、そこから有毒植物は他にどんなものがあるのかを調べてみたくなりました。人々の役に立つ植物に興味を持ったきっかけは、有毒植物を調べていて「薬品になる植物」を見つけました。そこからもっと調べてみたいと思ったので調べました。

～一日目に学んだこと～

自然体験コース一日目のネイチャーガイドの先生は、横田清美先生です。一日目には私が調べた事がある「トリカブト」を見ることができました。「トリカブト」の花びらは紫色で、とても鮮やかでキレイでした。しかし、「トリカブト」には毒があります。



トリカブト

花びらはとてもキレイだけど、根の部分に毒があります。触ったぐらいなら大丈夫ですが、食べてしまうととても危険で、手足のマヒ重症の場合は死亡することもあります。

ツユクサ

ツユクサの花びらでぬり絵をすることができます。花びらを紙の上に置いてこすると、キレイな色が写ります。

クマの足跡

畑には、クマの足跡がありました。とても大きな足跡と、少し小さい足跡がありました。くっきりと残っていたので、ビックリしました。

クマの爪あと

この木の周りには、傷がたくさんあります。この傷は、クマの爪あとです。この木には、約十年前につけられた爪あとがあります。十年経っても爪あとが残っているので、クマの爪はとても鋭利だということがわかりました。



そばの花

畑一面に咲いている花は、そばの花です。そばの花は、いろいろなことに利用されています。若い茎や葉は、サラダの材料として使われます。その他にも、そば茶に利用されたり、米と混ぜて炊いて食べることもあります。もちろん、そばの原料としても利用されています。

カンボク

これは、カンボクという植物です。カンボクは、白色の小さな両性花のまわりに大きな5枚の装飾花があります。9月に見たときは、両性花と装飾花だけでした。しかし、10月ぐらいには赤い実をつけます。赤い実をつけたカンボクは見るのができなかったけど、両性花と装飾花がとてもきれいでした。



ツリフネソウ

これは、ツリフネソウという植物です。ツリフネソウは、低地から山地にかけて分布し、水辺などの湿った薄暗い場

所に自生します。3～4cmほどの赤紫色の花が釣り下がるように、多数咲きます。とてもきれいな色をしていました。

クロモジ

クロモジという木を見ました。古くからクロモジを削ってようじを作ります。東北などでは、クロモジは鳥木と呼ばれ、狩りの獲物をクロモジの木の枝に刺し、神への供物とする風習があります。

天鏡閣

国指定重要文化財の天鏡閣を見学しました。食堂や、客間などを見学しました。震災の影響で壁などが一部壊れてしまっていました。天鏡閣の窓ガラスと、現代の窓ガラスとでは大きな違いがあります。それは、手作りか機械で作っているかという違いです。昔の窓ガラスは一枚一枚手作りですが、現代の窓ガラスは機械で作っています。しかし、これも震災の影響でほとんどの窓ガラスが割れてしまい、手作りの窓ガラスは少ししか残っていませんでした。でも、手作りの窓ガラスを見ることができたので良かったです。天鏡閣は国指定文化財の一つで、昭和天皇や皇太子様が訪れたそうです。とてもスゴイところなんだということがわかりました。

景観に対する心配り

福島県は、とても景観に心配りをしていました。わたしたちが住んでいる千葉県は郵便局のポストは赤、郵便局の看板はオレンジ、お店の看板は青や黄色などの目立つ色です。しかし福島県は、ポストも看板も全部茶色でした。目立つ色は一切使っていませんでした。これは、緑豊かな自然の中にオレンジや赤などの目立つ色があってはならないからです。とても珍しいものを見ることができました。

～二日目に学んだこと～

自然体験コース二日目は、裏磐梯野鳥の森を歩きました。二日目のネイチャーガイドの先生は、阿部武先生です。ここでは、植物のことだけでなく、鳥のことについても学ぶことができました。

ウグイスの鳴き声

歩いているときにウグイスの鳴き声を聞きました。ウグイスが活動している季節は春という印象が強いですが、9月にも活動していました。ウグイスは、2月上旬ごろからさえずり始めます。8月下旬ごろまでさえずりを聞くことができます。そのあとも、10月ごろまで弱いさえずりを聞くことができます。

さえずりというのは、春によく聞くことができる「ホーホケキョ」という鳴き声です。

私は、地鳴きを聞きました。地鳴きというのは、「チャッチャツ」という鳴き声です。

春によく聞く鳴き声とは違う鳴き声が聞けて、とても良かったです。

カラスの見分け方

カラスの見分け方も教えてくれました。見分けるコツは、くちばしの形です。

カラスは主に3種類あります。一つは、ハシブトガラスです。ハシブトガラスの特徴は、くちばしが太いこと、市街地に多く見られること、「カーカー」、「アーアー」と鳴くことです。もう一つは、ハシボソガラスです。ハシボソガラスの特徴は、体の色が黒一色ということ、田畑や近郊の森林で見られること、「ガーガー」と鳴くことです。

最後の一つは、ミヤマガラスです。ミヤマガラスの特徴は、くちばしが鋭いこと、冬に集団で農耕地などで見られること、小さな声で「カルルルル」と鳴くことです。

鳥のことについて詳しく教えてくださったので、とても勉強になりました。

ブナ

ブナ林を長い時間歩きました。ブナは、生長するにしたがって根から毒を出していきます。そのため、一定の範囲に一番元気なブナだけが残ри、残りのブナは弱って枯れてしまいます。ブナは、家具の脚、スキー板、玩具材、楽器の鍵盤、皿の普及品の材料として利用されます。ブナは、福島県の市町村の木に指定されています。

ブナの実も見ました。ブナは何年かに一回実をつけます。なぜ何年かに一回かというと、木が弱ってしまうから、毎年実をつけていると決まった動物に全部食べられてしまうからです。ブナも工夫されていてスゴイと思いました。



ウメバチソウ

ウメバチソウという植物を見ました。葉は柄があって、ハート型になっています。

高さは10 cmから40 cmです。花茎には葉が一枚と、花を一個つけます。日当たりのよい湿った草地に生えます。開花時期は8月～10月で、2 cm

ほどの白色の花を咲かせます。

日本では、北海道～九州に分布します。



そして、展望台に着き、少し休憩をしました。そこで見た桧原湖と磐梯山はとてもきれいでした。

ここで、桧原湖について説明をします。

——桧原湖とは？——

桧原湖は一瞬にできあがったものではなく、最初は水たまりが多数発生し、それが徐々に水笠を増していきました。

た。集水域に集落や農耕地が少ないため、水質は汚染が少なくキレイな湖です。この湖は沿岸部の傾斜が急で、しかも水質がキレイで水生植物はあまり生息していません。桧原湖は裏磐梯に分布する湖沼の最上流部にあり、ここに生息する動植物は排水路を通じて下流の多くの湖沼へ広がるので、裏磐梯の動植物を保護するためにも重要な役割をもつ湖です。桧原湖は、なくてはならない湖なんだと思いました。

——人々の役に立つ植物——

ネイチャーガイドの阿部先生に人々の役に立つ植物をたくさん教わりました。

どんなものがあるのかを紹介します。

ドクダミ

加熱することで臭気が和らぐため、日本では山菜として天ぷらなどにします。

ベトナム料理では主要な香草として重視されています。

そして、生薬としても利用されています。

漢方では、解毒剤として用いられます。ドクダミは単独で用いられることが多く漢方方剤としてほかの生薬とともに用いられることはあまりありません。臭気はほとんどなく、湿疹・かぶれなどには生薬をすりつぶしたものを貼り付けるとよく効くそうです。

マタタビ

疲れた旅人がマタタビの果実を食べたところ、再び旅を続けられたということから

「又旅」となりました。

生薬で、冷え性・神経痛に効きます。

マタタビはいろいろなことに役立っています。

木の芽は、煮物・焼き物など料理の彩りとして添えられます。

花の部分は、当座煮や佃煮に利用されています。

果実は、ちりめんじゃこを足してちりめんさんしょとなります。

果皮は、うなぎのかば焼きの臭みを消したり、七味唐辛子に利用されています。

ゲンノショウコ

ゲンノショウコは、昔から下痢止めの薬草として使われてきました。

中国の古い本に載っていた「食べられる植物一覧」の中にあった花とよく似ていて、食べてみたところ下痢が治ったという説があります。そこから薬草として認められるようになりました。ゲンノショウコは日本各地の草原などに生育し、高さ数十cmになる多年生草本です。花は紅色と白色があります。紅色は西日本に多く、白色は東日本に多いです。

岡山県では混生していますが、紅色の方が多く生育しています。

コシアブラ

コシアブラは、北海道から九州の冷温帯から暖温上部を中心に生育します。

葉は大きく、5枚の小葉からなっていて、黄色から透き通ったクリーム色に紅葉し、秋のあでやかな紅葉の中で清楚な姿を見せます。

紙が未発達な時代、高価な時代には木を薄く削ってお経などの文章を書いていました。

ビニールなどの石油化学製品による包装材料がなかった時代には、この経木が欠かせなかったようです。

木を薄く削って編んだものを経木真田といい、これをミシンで縫い、麦藁帽子が作れます。

——毒のある植物——

阿部先生に毒のある植物についても教わりました。

シキミ

花や葉、実、さらに根から茎にいたる全てが毒。特に種子の部分に毒の成分が多いと言われています。葬儀に利用され、枕花として一本だけ供えることが多いです。

シキミの実は、ややシイの実に似ています。そのため、誤って食べてしまう事故が多いです。中毒症状は、嘔吐・下痢・意識障害など。最悪の場合死にいたることもあります。

ドクゼリ

ドクゼリの有毒部位は全草、特に根茎や根です。

現在の日本では、ドクゼリを薬用として利用していません。食用としては、猛毒なため全くダメです。しかし、誤食事故が多い毒草のひとつです。

ワサビと間違えて根茎を食用としたり、若芽をセリと間違えて食用とする事故が起こっています。誤ってなめたり食べたりすると、脈拍が増加し、呼吸困難となり、一命を落とすこともあります。

私が最初に調べた植物は、「水芭蕉」です。私たちが行った頃にはもう開花時期が過ぎてしまっていて、実際に水芭蕉を見ることができなくてとても残念でした。

水芭蕉について調べてきたことを紹介します。

水芭蕉

水芭蕉は見た目がとても美しい植物ですが、有毒植物です。

葉の汁にシュウ酸カルシウムを含み、肌につくとかゆくなったり水ぶくれになってしまいます。また、アルカイドを含み服用すると吐き気や脈拍の低下、ひどいときには呼吸困難や心臓マヒを引き起こす危険があるので、人には害があります。

人間にとってはものすごく危険ですが、クマは冬眠後、この水芭蕉を食べて体内の老廃物を排出します。

水芭蕉の地方名

北海道での呼び名は3種類あります。

1つ目は、水芭蕉の葉が牛の舌に似ていることから、「ベコノシタ」と呼ばれています。

2つ目は、水芭蕉の花序を蛇の枕に見立てていることから、「ヘビノマクラ」と呼ばれています。

3つ目は、アイヌ語で「幅の広い葉」という意味をもつことから、「パラキナ」と呼ばれています。

石川県白山市では、「ウシノクシヤ」と呼ばれています。

今まで詳しく調べてきた水芭蕉を見ることができなくて残念だったけど、知らなかったこ

とをたくさん教えてくれたのでとても勉強になりました。
植物や鳥のことを学べて良かったです。